

東地域まちづくり協議会だより 第30号

東地域・氷見の魅力発見教室の開催

東地域まちづくり協議会 会長 大嶋 充

1月15日（水）、比美乃江小学校6年生を対象に、標記の活動を実施しました。当日は、本協議会の事務局長の野口朋寿さんが、本人が取り組んだサモアでの国連開発計画の活動について話して下さいました。

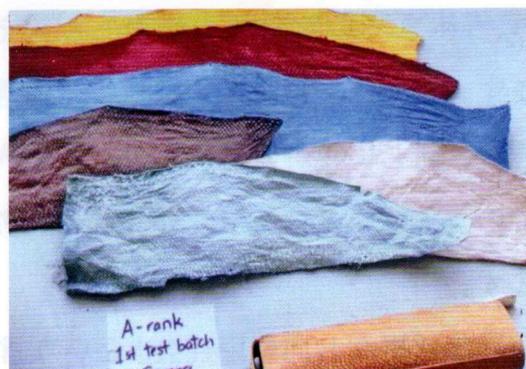
野口さんは、地域起こし協力隊員（東地域）として活躍して下さいました。特に、魚の革をなめして「フィッシュレザー」（魚の革）にして、財布や名刺入れなどの製造を行っています。

2年前、国連からの依頼で、南太平洋の島国サモアの人々に革製品づくりや廃棄物の有効活用について、指導に取り組んできました。

サモアは、東京都の約1、3倍の独立国で、2,935平方メートル。人口が約218,700人の国です。飛行機で行くとニュージーランド経由で20時間を要すると言います。

子どもたちは、日本から遠い国での活動に興味しんしんで、真剣な表情で野口さんの話を聞いていました。特に、サモアは氷見と同じく漁業が盛んで、魚の皮の有効活用が課題となっていることに大変関心を示していました。また、色々な魚種の皮が色鮮やかな革製品の材料として生まれ変わることに驚いた様子でした。魚の皮の有効活用については、SDGs推進という今日的な課題でもあり、大変興味深そうに学習に取り組んでいました。

これまで、このような実践事例を、本協議会だよりでお伝えしてきました。例えば、京都市立芸大の藤本栄子教授をはじめ、その道の有名な講師陣による、「親子で万葉の歌碑めぐり」や昨年実施した「上庄川流域の水防・治水」についての学習は、地



域づくり協議会が東地域の住民とともに、次代の東地域を担う児童生徒を育てる具体的な活動であります。「学校」「家庭」「地域社会」が力を合わせて地域の宝である子どもたちを磨き育てることが、東地域まちづくり協議会の目指している「協育」の姿であります。現在、氷見市教育委員会・市内の小・中学校で取り組んでいる「コミュニティ・スクール」「ふるさと教育」「キャリア教育」の取り組みの事例として、ここに紹介させていただきました。

東地域・氷見の魅力発見教室の開催

昨年12月11日（水）東地区にお住まいの食生活改善部会の皆様方のご指導により、「いきいき元気館」に於いて「男女共同参画主催の男性料理教室」が開催されました。そこで挑戦したのは、「たくさんのお野菜を使った減塩料理」でした。東地域の自治振興委員が多数参加して下さり、調理実習・会食を通して、大変多くのことを学ぶことができました。

近年、料理教室に男性が通うことは、特別なことではありません。このことは高齢化や女性の社会参画推進という背景を考えると、当たり前のことであり、「生きていくための知恵」と言えます。また、料理の技術を習得する過程で、新しい視野が開けたり、家庭内でのコミュニケーションが充実したりと、「人生が豊かになった」という声が聞かれます。



近年、「男女共同参画社会」という言葉をよく耳にします。これは、女性であること、男性であることにかかわらず、「人」としての尊厳が尊重され、男女が対等なパートナーとして家庭、職場、学校、地域などのあらゆる分野に参画する機会が確保され、喜びと責任をともに分かち合うこと、とされています。

今回、自治的活動を積極的に推進する立場の自治振興委員の皆様が大勢参加させていただき、料理をすることの大変さを体感するとともに、その大切さについて学ぶことができました。この料理教室を機会に、「男女共同参画社会」について考え、男女共同の地域づくりを目指していきたいと思えます。